

都心部道路景観整備事業における市道3号線「ユニオン通り」の整備完了について

1 事業の目的

本市が目指す都市構造である「ネットワーク型コンパクトシティ」の中核となる都市拠点において、活力と賑わいにあふれ魅力ある中心市街地の形成に向け、誰もが楽しく回遊・交流できる環境を整備するため、無電柱化等により、ゆとりある道路空間の確保に努め、安全で安心できる潤いのある道路整備を行うもの

2 事業の経過

平成10年度～ 「都心部ランドデザイン」等に基づき、個別路線を整備
平成20年度 集客性が高く歩行者量も多い「ユニオン通り」を優先整備路線に選定
平成22年度～ 地元商店街との勉強会を開催（コンセプト、整備手法、工事の進め方等）
平成25年度～ 整備工事に着手
平成26年度 「第2期中心市街地活性化基本計画」において、波及効果の高い重点事業として位置付け

3 整備の概要 別紙

- (1) 延長： 368m（東京街道～材木町通り）
- (2) 幅員： 5.5～6.5m
- (3) 整備方針： まちづくりの視点から地元商店街等と意見交換を重ね、地元の意向を取り入れながら、地域特性を活かした個性的な整備を進める。
- (4) 整備内容： 下記の手法により、歩行空間の確保や良好な道路景観を形成
 - ・ 電線共同溝による電線類地中化（電線類を埋設し、道路空間から排除）
 - ・ カラー舗装による舗装の美装化（デザインのリニューアル）
 - ・ 街路灯のLED化 など

4 主な特徴

- (1) 地元のまちづくりと連携した道路整備
まちづくりへの関心が高い地元商店街と意見交換を重ねながら、ユニオン通りにふさわしい「電線類を地中化する工事の方法」や「舗装のデザイン」等を決定
- (2) 街路灯と一体化した電線共同溝の整備
狭小な歩車共存のユニオン通りにおいて、省スペース化が可能な方式*を採用
※ 地上に設置が必要な設備（変圧器等）を街路灯と一体とし、柱の上に設置する工法
- (3) デザイン性と維持管理の容易性を両立したカラー舗装の実施
ユニオン通りの特性にあったモダンなデザインに加え、維持管理に配慮した舗装方法*を選定
※ 経年劣化によるガタツキ等が懸念されるブロック舗装ではなく、通常の舗装の上にブロック調に色を塗り付ける工法（本市になじみの深いイチョウ、亀甲をモチーフとしたデザインやレンガ調で飽きない色づかいを選定）

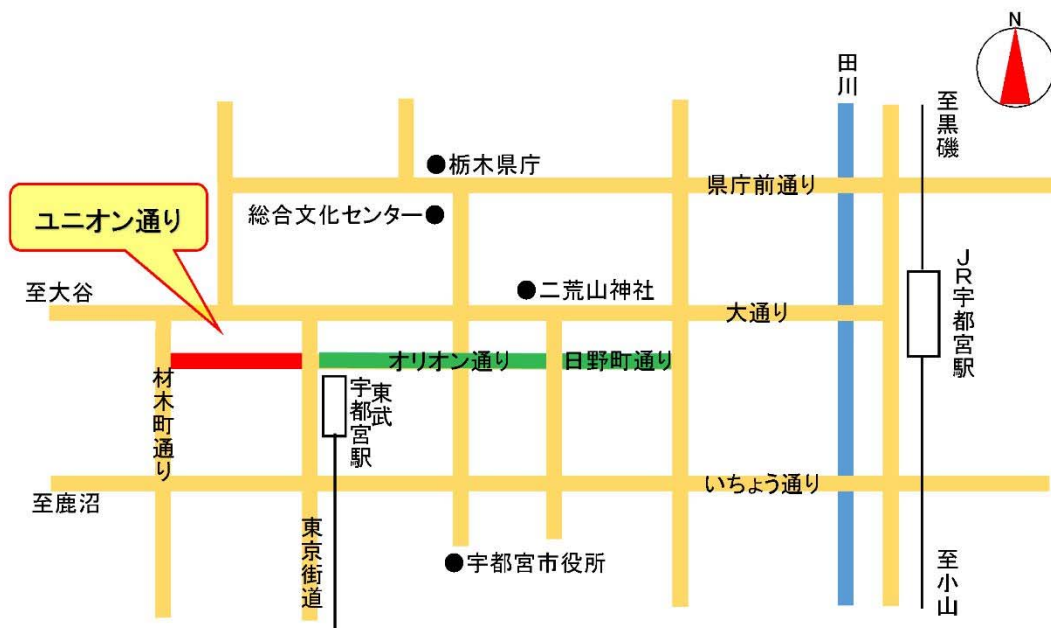
5 整備効果

- ・ 若者文化の発信拠点にふさわしい独自性のある景観形成や安全で安心な歩行空間の実現によるユニオン通りの魅力向上
- ・ 日野町通りからオリオン通り，さらにはユニオン通りへ続く，連続性のある道路空間整備により，中心市街地活性化基本計画に掲げる「歩いて楽しい道路空間づくり（歩行者中心の道路空間の創出等）」に寄与し，賑わいを創出

【整備効果を実感する地元の声】

- ・ 店舗前が整備され，通りの視界も広がり，仕事への意欲が向上した。
- ・ 歩きやすく綺麗になった。
- ・ 今後は，道路整備と商店街の活動による相乗効果により，さらなる商店街の活性化を期待している。

6 位置図



7 その他

- ・ 9月末に工事完了予定
⇒ 10月から全線リニューアルしたユニオン通りを通行可能
※交通規制について，通行者にとってより分かりやすい利用を促すため，リニューアルを見据え，平成31年2月から，車両（自転車を除く）の一方通行（東進）を時間指定から終日に変更

整備前



電線類の地中化
舗装の美装化（カラー化）
街路灯の整備 など

整備後



若者文化の発信拠点でもあるユニオン通りにふさわしい
独自性のある都市景観の実現